

令和 8 年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校（保健体育）問題

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

注 意

- 1 この問題は **4 問 3 ページ** で、時間は **60 分** です。
- 2 解答用紙は、**別紙** で配布します。「**始め**」の合図で始めてください。
- 3 **解答**は、それぞれの問題の指示に従って**解答用紙**に記入してください。
- 4 「**やめ**」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 5 **解答用紙**を持ち出してはいけません。

令和 8 年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校 保健体育

1 中学校学習指導要領解説「保健体育編」について、(1)～(3)に答えよ。

- (1) 次は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕
1 目標〔第1学年及び第2学年〕及び〔第3学年〕」の一部である。下の①～②に答えよ。

〔第1学年及び第2学年〕

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の（ a ）について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動についての自己の課題を発見し、A 合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の（ b ）を果たす、一人一人の違いを（ c ）ようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に（ d ）し、自己の（ e ）を尽くして運動をする態度を養う。

〔第3学年〕

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の（ a ）について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の（ f ）を果たす、（ g ）する、一人一人の違いを（ h ）にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を（ i ）して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

① a～i にあてはまることばを、それぞれ記せ。なお、同じ記号には同じことばが入るものとする。

② 下線部 A について、次の文の ア～エ にあてはまることばを、下の①～⑧からそれぞれ一つ選び、番号で記せ。

運動の行い方、（ ア ）方、仲間との関わり方、安全上の留意点など、これまで学習した運動に関わる（ イ ）原則や運動に伴う事故の防止等の（ ウ ）的な知識や技能を、学習場面に（ エ ）したり、応用したりすることを示している。

- | | | | |
|------|-------|------|--------|
| ① 利用 | ② 組合せ | ③ 特殊 | ④ 適用 |
| ⑤ 科学 | ⑥ 具体 | ⑦ 一般 | ⑧ 取り入れ |

- (2) 次は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕
2 内容 F 武道〔第1学年及び第2学年〕 (2) 思考力、判断力、表現力等」である。
下の①～③に答えよ。

(2) A 攻防などの自己の課題を発見し、B 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、C 自己の考えたことを他者に伝えること。

- ① 下線部 A について、次の文の a にあてはまることばを、記せ。

武道の (a) を踏まえて、技や簡易な攻防などの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己の取り組み方などの課題を発見したりすることを示している。

- ② 下線部 B について、次の文の b にあてはまることばを、記せ。

技の (b) や簡易な攻防、仲間との関わり方、安全上の留意点などの発見した課題を、合理的に解決できるよう知識を活用したり、応用したりすることを示している。

- ③ 下線部 C について、次の文の c にあてはまることばを、記せ。

自己の課題について、思考し判断したことを、言葉や (c) などで表したり、他者にわかりやすく伝えたりすることを示している。

- (3) 次は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕
2 内容 E 球技 内容の取扱い (ウ)」である。次の文のア～クにあてはまることばを、下の①～⑬からそれぞれ一つ選び、番号で記せ。なお、同じカタカナには同じことばが入るものとする。

(ウ) 球技の運動種目は、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」で示している。なお、取り扱う運動種目は、「ゴール型」については、バスケットボール、(ア)、サッカーの中から、「ネット型」については、バレーボール、卓球、テニス、(イ)の中から、「ベースボール型」については、(ウ)を適宜取り上げることとしている。第1学年及び第2学年のうちに、これらの(エ)の型を全て履修できるようにするとともに、第3学年では、(エ)の型の中から、自己に適した(オ)の型を選択できるようにするとともに、第1学年及び第2学年の学習を一層深められるよう配慮することが必要である。

なお、学校や地域の実態に応じて、(カ)などの運動についても履修させることができることとしているが、原則として、その他の運動は、内容の取扱いに示された各運動種目に(キ)履修させることとし、学校や地域の特別の事情がある場合には、(ク)履修させることもできることとする。

- | | | | |
|----------|--------|----------|------|
| ① ソフトボール | ② 加えて | ③ ゴルフ | ④ 一つ |
| ⑤ 野球 | ⑥ 敢えて | ⑦ ハンドボール | ⑧ 二つ |
| ⑨ レスリング | ⑩ 替えて | ⑪ スケート | ⑫ 三つ |
| ⑬ バドミントン | ⑭ ボッチャ | ⑮ タグラグビー | ⑯ 多数 |

2 次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 水泳において、「水をつかまえる」という意味で、入水から腕のかきによって推進力を生み始めるまでの局面を何というか、記せ。
- (2) バスケットボールのルールにおいて、両手で連続してドリブルを行ったり、ドリブル中に両手でボールを触れた後に再びドリブルを行ったりするバイオレーションのことを何というか、記せ。
- (3) 走り高跳びの跳び方において、バーに対して斜め後方や正面から助走し、踏み切った後に振り上げ足から順にバーをまたいで越える「またぎ跳び」や、両足を交差させて大きく開き、上体を横に倒しながらバーを越える「正面跳び」などの跳び方を総称して何というか、記せ。

3 次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 観点別学習状況の評価において、「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、二つの側面を捉えることが求められている。その側面を二つ、記せ。
- (2) 球技「ネット型」の学習において、空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続を学習課題として追究するためには、「ボールや用具の操作」を身に付けさせることが重要である。これに関連して、基本となる「ボールや用具の操作」のポイントや留意点を二つ、記せ。
- (3) 保健分野の指導において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることが求められている。特に「対話的な学び」を実現するために、授業者の視点から授業改善に向けて取り組むべきことを二つ、記せ。

4 次の(1)～(4)について、それぞれ簡潔に説明せよ。

- (1) 熱中症
- (2) 特定保健用食品
- (3) 巧みな動きを高めるための運動
- (4) スポーツ障害

※印のところは記入しない

受検番号		氏 名		※	
------	--	-----	--	---	--

----- 切りとらないこと -----

令和8年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

※

中学校保健体育 解答例

1	(1)	①	a	必要性	b	役割	各 3 点	
			c	認め	d	留意		
			e	最善	f	責任		
			g	参画	h	大切		
			i	確保				
		②	ア	②	イ	⑦	各 2 点	
			ウ	⑤	エ	④		
		(2)	①	a	特性			
	②		b	習得				
	③		c	文章				
	(3)		ア	⑦	イ	⑬	各 2 点	
			ウ	①	エ	⑫		
			オ	⑧	カ	⑮		
			キ	②	ク	⑩		

裏面に続く

2	(1)	キャッチ	(2)	イリーガルドリブル (ダブルドリブル)	各4点
	(3)	はさみ跳び			
3	(1)	粘り強い取組を行おうとしている側面			2×2 4点
		自らの学習を調整しようとする側面			
	(2)	ボールを受ける前の身体や用具の構え方（準備姿勢） ボールの捉え方（インパクト） 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。			2×2 4点 等
(3)	自分の考えをまとめ伝える時間を設ける。 仲間の考えを知る時間を設ける。 自分の考えとの合致点や相違点を知る時間を設ける。			2×2 4点 等	
4	(1)	体温を保つ身体の適応能力には限界があり，その限界を超えると健康に重大な影響が見られる。気温や湿度が高く暑いと熱中症になる危険が高まる。			等
	(2)	食生活において特定の保健の目的で摂取をする者に対し，その摂取により当該保健の目的が期待できる旨の表示をする食品のこと。			等
	(3)	自分自身で，あるいは人や物の動きに対応してタイミングよく動くこと，力を調整して動くこと，バランスをとって動くこと，リズムカルに動くこと，素早く動くことができる能力を高めることをねらいとして行われる運動のこと。			各4点 等
	(4)	運動やスポーツをやりすぎたり，誤った方法でトレーニングしたりして，体のさまざまな部位（肘や膝等）に障害を起こすこと。			等